

平成の氏子駈・氏子狩復活事業から 見えてきた木地師組織と文化



東近江市企画部企画課

平成28年度の木地師関連事業

・木地師のふるさとシンポジウム

- ① シンポジウムの開催
- ② 木地師資料の巡回展示

・平成の氏子駈・氏子狩復活事業

- ① 小椋さん大蔵さんへのアンケート調査
- ② 全国の木地産地の訪問
- ③ 情報発信事業(パンフレット作成、FaceBook開設)

小椋さん大蔵さんアンケート

1 アンケート調査結果概要

(1) 目的

木地師と関連があり、東近江市蛭谷町、君ヶ畑町と縁が深いと言われる方々を対象に、今後、本市との交流の可能性等について把握する。

(2) 対象者

蛭谷町、君ヶ畑町に残る「氏子駄帳・氏子狩帳」を元に6,355人を抽出。

アンケートの送付先

実施時期 平成29年2月

対象地	姓	根拠	件数
全国	小椋	氏子駈帳・氏子狩帳に記載	3,580
	大蔵		1,702
福島県 南会津郡	星	蛭谷町の氏子駈帳第31号に記載	305
	堀川		0
	菊地		6
	室井		154
	玉川		75
	佐藤		192
	渡部		216
長野県	堀川	君ヶ畑町の氏子狩帳第44号に記載	125
合計			6,355

※NTTハローページ(2015年または2016年発刊)に記載された情報を活用

回収結果 回答数:1,655件 回収率:26.9%

木地師の認知度

①「木地師」を知っていましたか？

- ・ 知っていた。
1,399人 / 84.5%
- ・ 知らなかった。
229人 / 13.8%

東近江市の認知度

②滋賀県東近江市を知っていましたか？
訪れたことはありますか？

- 訪れたことがある。

312人 / 18.9%

- 知っているが、行ったことはない。

672人 / 40.6%

- 知らなかった。

652人 / 39.4%

名字と木地師との関連

③木地師や永源寺地区との縁に対する認知度

- 知っていた。
350人 / 21.1%
- 聞いたことはあるが詳しく知らない。
425人 / 25.7%
- 知らない。
862人 / 52.1%

自身と木地師や 永源寺地区との関わり

- 「小掠(小掠)・大蔵(大蔵)」の3割が認知
- 「小掠(小掠)・大蔵(大蔵)以外」
8割以上が知らない。

この結果から、「小掠(小掠)・大蔵(大蔵)」の方々の多くは、ご自身と木地師や永源寺地区との関係を何かしらご存じであり、強いつながりがあることが明らかになりました。

アンケート自由記載から抜粋

- 私の家系は祖父、祖母ともに小椋姓で木地師である。(岐阜県揖斐川の出身)江戸時代まで奥山に入り、仕事をしていたということがわかっている。(中略)木地師は歴史の中で、多々の情報を拾っており、戦国時代の裏山の道、隠れ地、家、浄土真宗との関係、各藩それぞれ木地師を利用したようだ。忍者の比ではない。全国に組織を持っていた。【北海道】
- 昭和30年まで、木地の生産と塗うるし等、生産販売していた。公文所発行の通行手形等も3部ほどあると思うが、今、探している。【岩手県】

アンケート自由記載から抜粋

- 先祖は、福島県から木地師として移り住んでいるということを聞いていた。小国町は雪国なので、山の斜面に生える木は雪で押されて根元が曲がり、曲がった部分の木目を活かしたお椀等をつくっていたという、記憶がある。また、天皇の許可を得ていたという事も聞いていた。家紋は菊の紋だが、花びらの数は天皇家より1枚少ないそうだ。【山形県】
- 1950年(天正18年)、蒲生氏御公が、会津藩士として会津若松に入府された時に一緒に木地師が連行され、産業の発展に貢献されたと聞いている。【福島県】

アンケート自由記載から抜粋

- 他界した父より、小椋家の先祖は滋賀の近江の木地師が元であると聞いた事がある。
【埼玉県】
- 父親から木地師で苗字帯刀を許されたと聞いていた。母親と姉が約60年前に福島温泉に行った時、旅館の主人にこの山奥に小椋の集落(佐藤が4軒残り約50軒が小椋)があると聞き、訪ね、歓待されたと喜んでいました。
【東京都】
- 小椋の会を作り、木地師の話やお互いのルーツを肴に呑み会を開いていた。【大阪府】

アンケート自由記載から抜粋

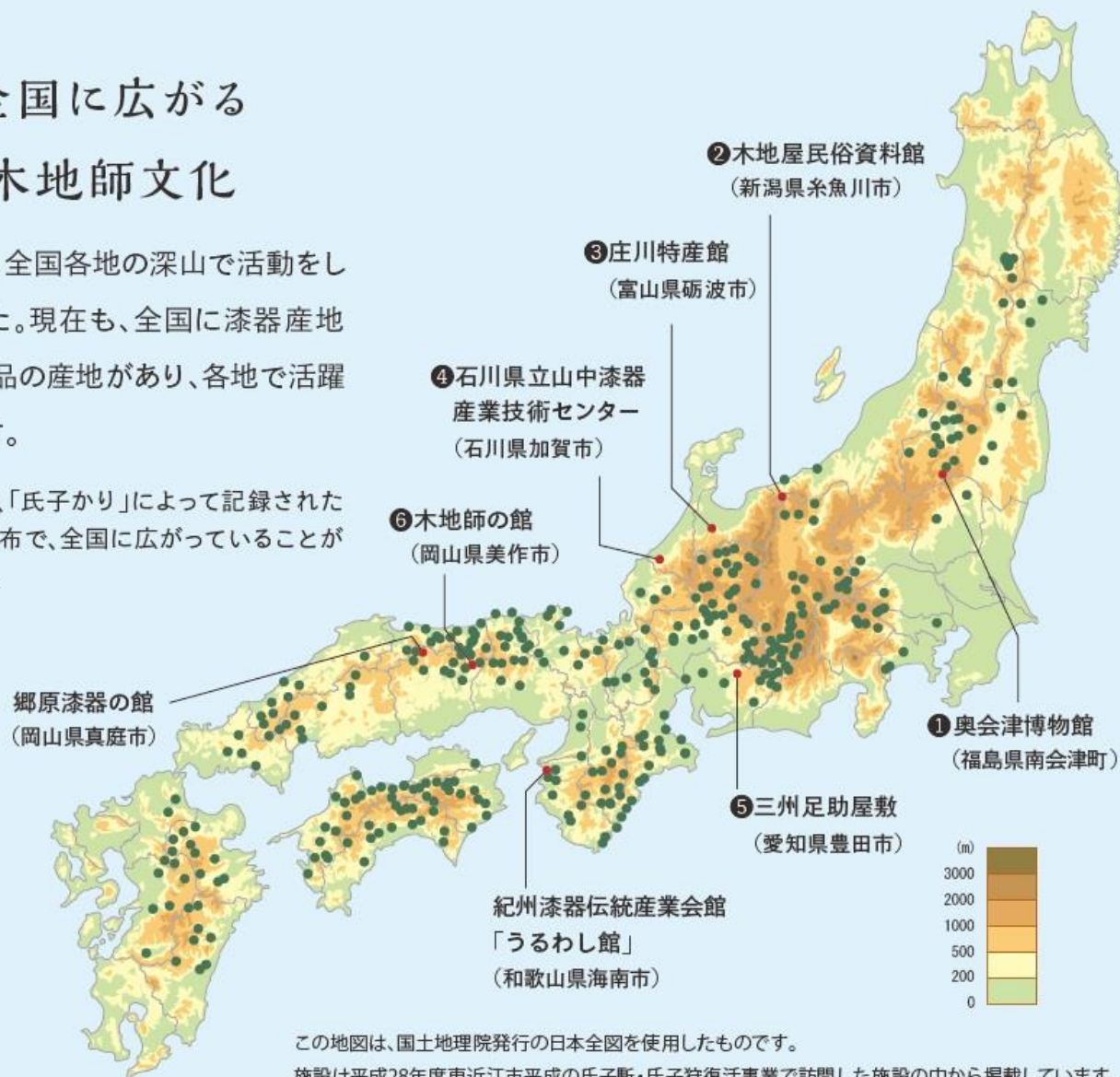
- 家には惟喬親王像の下でロクロを引いているご先祖様のお軸また巻物が5本程ある。話では全国どこの山の木を伐ってもお咎めなしの御免状だと聞いている。三十二代末裔筒井正八幡氏子として小椋六兵衛から始まった家系図がある。【愛知県】
- 小椋姓は、木地師とは聞いていたが、室井姓が氏子駈帳に記載されていることは全然分からなかった。子供の頃、私の旧家の神棚に長さ10cm直径3cm程度のすすだらけの巻物があり、祖父に尋ねたら、どこの家の小椋家にもある物で「木地師」の関係の物だと聞いた記憶がある。【福島県】

全国の木地産地の訪問

全国に広がる 木地師文化

木地師は、全国各地の深山で活動をしてきました。現在も、全国に漆器産地や木工芸品の産地があり、各地で活躍しています。

地図の●は、「氏子かり」によって記録された木地師の分布で、全国に広がっていることが分かります。



この地図は、国土地理院発行の日本全図を使用したものです。

施設は平成28年度東近江市平成の氏子駆・氏子狩復活事業で訪問した施設の中から掲載しています。

全国の木地産地の訪問

1 ヒアリング調査の目的

現在も木地師が活躍している地域の現状や東近江市との歴史的つながり、今後のネットワーク化の可能性等について把握することを目的にヒアリング調査を行った。

2 ヒアリング訪問先

木地師が活動している地域や木地師に関連する施設・団体(博物館・資料館・組合等)を中心に、全国16ヶ所を選定し、ヒアリング調査を実施した。

福島県南会津町 (平成28年12月8日訪問)

奥会津博物館

室井 智 氏(奥会津博物館館長)

金井 晃 氏

(東北地方木地師学研究会代表)

紀木工所
紀 治夫 氏



福島県福島市土湯温泉町 (平成29年1月25日訪問)

陳野原 幸紀 氏

(伝統こけし工人、美轆会(若手こけし工人の会)会長、味工房ひさご主人)



和歌山県海南市 (平成29年2月2日訪問)

紀州漆器協同組合



紀州漆器伝統産業会館(うるわし館)



田村 彰男 専務理事



橋本 成美・前代表(左) 堺 昭憲・代表(右)

新潟県糸魚川市 (平成29年2月7日訪問)

木地屋会 木地屋の里施設管理組合

小掠 繁夫 氏(木地屋会会長、木地屋の里施設管理組合長)

小掠 裕樹 氏(神奈川大学大学院歴史民俗資料学研究科博士後期課程、
糸魚川文化財保護審議会委員)



小掠 繁夫 氏(左)と小掠 裕樹 氏(右) 糸魚川の木地屋の方が制作した器類

鳥取県若桜町 (平成29年2月15日訪問)

小林 義實 氏(木地師 小林挽物店)

村口 洋一 氏(若桜町観光協会事務局長、
若桜町商工会商工振興アドバイザー)



石川県加賀市山中温泉 (平成29年2月16日訪問)

石川県立山中漆器産業技術センター
石川県挽物轆轤技術研修所

呉藤 安宏 氏
谷口 美和 氏



ろくろの里 工芸の館
館長 辻 新太郎 氏



展示室と
資料室



岡山県美作市・津山市 (平成29年2月26日訪問)

木地師の里運営委員会

会長 小椋 勉 氏

小椋 太郎 氏

小椋 箆夫 氏

小椋 嘉寿朗 氏

小椋 芳之 氏

(岡山県重要無形文化財指定

木工芸の保持者認定)

(日本工芸会 正会員)



工房の様子

岡山県真庭市郷原 (平成29年2月27日訪問)

郷原はま屋漆器 真庭工芸会
小椋 一氏

郷原漆器生産振興会 郷原漆器の館
高月 国光氏(日本工芸会 正会員)



富山県砺波市庄川町 (平成29年2月27日訪問)

庄川木工協同組合

理事長 但田 一彦 氏

理事 加藤 秀明 氏

理事 島田 昭 氏



(左から、但田一彦氏、
加藤秀明氏、島田昭氏)



特産館の中の体験工房



神奈川県小田原市 (平成29年2月28日訪問)

一般社団法人箱根物産連合会
古宮 和幸 氏

木工ろくろ もくのすけ
鈴木 友子 氏



神奈川県立
工芸技術所



アンテナショップ
「WAZA屋」



アンテナショップ
「TAKUMI館」



工芸技術所内の作業場

滋賀県高島市朽木 (平成29年3月1日訪問)

木工作家 澤田 崇氏



愛知県豊田市足助町 (平成29年3月4日訪問)

株式会社三州足助公社
原 章展 氏



三州足助屋敷の入口



木地屋の工房兼見学施設

長野県南木曾町 (平成29年3月5日訪問)

有限会社ヤマト小椋商店
小椋 正幸 氏



有限会社野原工芸 代表取締役
野原 廣平 氏
(南木曾ろくろ工芸協同組合 理事長)



香川県さぬき市 (平成29年3月7日訪問)

木地師体験工房(工房さんがわ)
代表者 寒川 廣詞 氏



木地師技術・技能伝承工房

大分県山国町

(平成29年3月8日訪問)

「山国町の木地師」編集担当者
(当時、教育委員会所属)
梶原 豊美氏

永源寺町史から山国町や九州の木地師
に関わることを全て洗い出した。

山国工芸社
藤原 武夫氏



全国の木地産地の訪問から

- 木地師をメインにしたまちおこしへの取組はうれしい。
- 木地師が一堂に会する販売会や工芸作家の作品のみを集める場などにも期待。
- 全国的なネットワークを使って、情報交流をしたい。
- 東近江の取組には協力したい。東近江に木地師のルーツがあることをメリットにできるような取組に期待する。

全国の木地産地の訪問から

- 相互の施設にパンフレット等を配置してはどうか。
- 小椋姓を集めての「小椋サミット」を実施してはどうか。
- 木地師という伝統を引き継ぐ者として、永源寺、氏子狩りについては敬意があり、精神面の核となっている。東近江市にはそういった立場で木地師を応援してもらいたい。
- 時間との闘いでもあり、早く始めないと木地師の文化が絶えてしまう。最低でも関連する資料や物を残すこと。また映像に残すことも大事。

全国の木地産地の訪問から

- 東近江市が中心となって木地屋、木地師の総本山、聖地として、文化的な発信、保存、展示をやってもらいたい。
- どこも跡継ぎがいなくて困っており、技術の伝承、映像の保存などに取り組んでほしい。
- 自分達の子どもを含め、次世代に木地屋について伝えることができていない。世代交代がうまくいっていない。

東近江市への期待

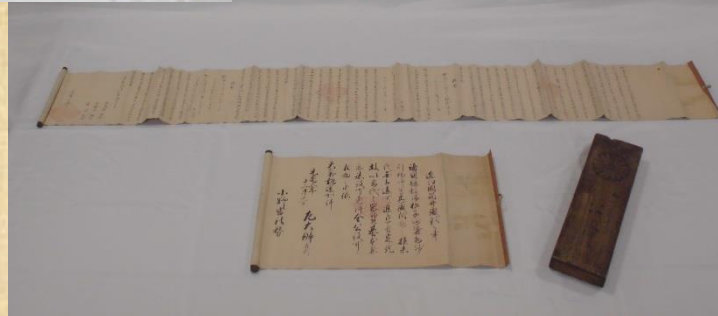


アンケートと共に寄せられた数多くの資料



東近江市への期待

「木地師」文化を後世に伝える



この事業を契機として、木地師の末裔に当たる小椋久子さん(岡山市)から木地師にまつわる古文書などの寄贈を受けました。

東近江市への期待

① 木地師に関する資料散逸への対応

貴重な資料、道具の収集保存と公開

② 木地師研究の推進

聞き取り調査や資料に基づく研究

③ 木地師とその関係者の交流機会の創出

末裔の人たち(里帰り、交流、情報提供)

全国の木地師(工芸展、技術交流など)

④ 厳しい木地産業と新たな展開への模索

生業としての厳しい現状の打開

⑤ 若手木地師の育成と限られた活躍の機会

活躍の場づくり、技術の継承

木地師のふるさとのみちづくり

- A) 木地師文化に対する市民理解度の向上
まずは足元から、市民の認知度を上げる。
- B) 全国の末裔をつなぐサポーターづくり
1000人の想いをつなぐ。
- C) 全国の木地師ネットワークづくり
技術、情報、伝統・・・生業へ
- D) 木地師資料の収集と文化拠点づくり
資料の保存、歴史と文化の継承
- E) 地域のまちづくりとの連携
木の文化、山の文化から発する新たな展開へ